

第二百三十八話 主作戦に裨益しない作戦の虚しさ！

大東亜戦争は、志那大陸正面と太平洋正面の云わば二正面作戦である。相互に如何なる関係があったかを知ることは新たな視点を我等に与えるのではなからうか？

1 支那戦線と太平洋戦線の相互関係

大東亜戦争は対米英戦開始後においては、主敵は米国であり、対米（英）戦が主作戦、支那戦線は支作戦となる。対米英戦開始後の支那戦線は、独立した戦線ではなく、太平洋戦線の影響を極めて濃く受けている。云うまでもなく、支作戦は主作戦に寄与することがその主たる役割である。

2 支那戦線からの太平洋戦線への陸軍部隊（航空部隊を含む）の転用

大陸は陸軍、太平洋は海軍との暗黙の戦域分担があったが、米軍の反攻が厳しくなり陸軍部隊を増援する必要が生じ、陸軍航空部隊や精鋭師団等が太平洋戦域に転用された。（詳細は割愛）

3 太平洋戦線等の影響を受けて実施された大陸における陸軍の作戦

(1) 香港攻略作戦と第二次長沙作戦（1941/12/25～1942/1/15）

厳密には太平洋戦線ではないが、対米英戦の開戦劈頭に行われた香港攻略作戦を支援する目的をもって、第二次長沙作戦が行われた。この作戦の問題点は、前話（237）で記述した通りである。

(2) ドーリットル空襲（1942/4/18）と浙贛作戦（1942/5/14～8/14）

ドーリットル空襲に驚愕した大本営は、浙江省方面の航空根拠地を覆滅する計画を策定した。本計画を支那派遣軍は更に大規模なものとして、浙贛作戦を 11, 13 両軍をもって実施すべく計画した。軍は、浙江省の飛行場や関係施設を破壊したる後撤収した。豪雨酷暑悪疫に悩まされた作戦であった。飛行場等を使用不能にするために細菌を撒いたとされる。派遣軍の真の作戦目的は別にあったとの見方もある。

(3) 五号作戦（重慶作戦）変じて江南殲滅作戦（1943/4/30～6/29）と

大本営が計画した重慶進攻作戦（五号作戦）は、中止された。しかし、支那派遣軍は、五号作戦の縮小計画による作戦を計画・実施した。これが江南殲滅作戦である。この作戦目的は、揚子江の輸送力を強化するため船舶の下航、揚子江沿岸地域の敵野戦軍の撃滅であった。然しながら、真の作戦目的は江南地域の敵野戦軍の撃滅であったという。日本軍は、5月29日作戦目的を達成したとして反転した。

(4) 太平洋正面への戦力転用を前に作戦敢行（常德作戦）

「甲号転用」を受け、最精鋭3個師団を抽出される11軍は、転用前に、敵6戦区軍の拠点たる常德進攻を計画し、大本営の認可を受けた。目的は中国戦線の維持に加え、ビルマ戦線への中国軍転用を牽制することとされたが、・・・日本軍は、日本軍は、常德の一時制圧と、中国軍の撃破という目標を一応は達成した。

(5) SLOC に対する米軍の脅威及び台湾新竹空襲（1943/11/25）と一号作戦

支那派遣軍が、大本営の意向を受けて策定した一号作戦は、日本陸軍史上最大規模の作戦であった。計画通りに日本軍が連合軍の航空基地の占領に成功し勝利を収めたが、戦略目的は十分には実現できなかった。

4 若干の観察

- ・ 作戦目的は達成しても戦略目的の達成は出来なかった。一時的占領や一部部隊の撃滅が如何なる意味があったのか？
- ・ 陸軍の悪弊、独断・攻勢至上主義と意図的目的改変
- ・ 一撃論も奏功せず、中国軍の後退戦術・人海戦術に翻弄、結局大部隊が被拘束。
- ・ 派遣軍は、主導権なき作戦を強いられ、隷下部隊は勝手な行動をした？

(了)